雅風会たより

第２号

目　次

- ◆　はじめに
- ◆　石膏と樹脂の仏様
- ◆　書店で紹介、佛所の仏像
- ◆　川村先生の作品から　－ 白衣観音 －
- ◆　川村先生との出会いと慈母観音像
- ◆　仏像彫刻教室から　－ 基本を大切に －
- ◆　あ・ら・か・る・と

2020 年 7 月 15 日　編集・発行 仏像彫刻「雅風会」
埼玉県所沢市狭山ヶ丘 2-2090
URL: http://www1.cts.ne.jp/~h-1butsu　(川村雅則佛像彫刻記念館)

◆　はじめに

「雅風会たより」第２号発行の運びとなり、皆様のご厚情の賜物と心から御礼申し上げます。

世界中に新型コロナウィルスが猛威を振るう中、記念館も開館を自粛し、雅風会の活動も一時お休みとなりました。生まれて日が浅い雅風会には予期せぬ試練の日々でしたが、一歩立ち止まり、多くの課題にゆっくり向き合い、振り返る貴重な期間ともなりました。現在は、感染防止対策を実施しつつ、活動を再開しております。

その様な中で第２号からは、佐仲努氏の連載がスタートします。佐仲氏は雅風会の研鑽会員で、長く仏像彫刻を続け、たくさんの素晴らしい作品を彫られています。生前川村先生から氏の作品についてのお話をお聞きしていましたので、そのご縁ということで是非にとお願いし、お引き受けいただきました。

また、この一年、記念館で多くの方に出会い、励ましやご意見などの温かい言葉をいただきました。賛助会の皆様には、２年目を迎え少し成長した雅風会をご報告したいところですが、一歩々々進んでいきたいと思っておりますので、もう少しお待ちください。

今秋は新しい教室の開設、来春は展覧会の開催と大きな目標を掲げています。

今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

◆　石膏と樹脂の仏様

記念館に来館された方の多くは、まず１階の川村先生の遺影にご挨拶され、並んでいる大型の作品とお厨子の阿弥陀様を丹念にご覧になります。その後教室の奥の隅にある仏像に目を留められ質問をされる方がいらっしゃいます。

２ 躰の像はいずれも川村先生の彫刻の原型になった石膏と樹脂の像で、聖僧像は賽の目が切ってあり興味深いものです。他の塑像が繰り返し別作品の粘土として使われ跡形もなく消えていったことに比べ、素材の異なるこの２躰が残されているのは、なにか特別な思い入れがあったのでしょうか。

今はもうお尋ねすることはできませんが、皆様に近くで見ていただけるように、２ 階に移動しました。ご来館の折にはぜひご覧ください。

◆　書店で紹介、佛所の仏像

新年１月、松久宗琳佛所から、銀座蔦屋書店で仏像と香合などが展示紹介されるとのお知らせがありました。

急遽予定を繰り合わせ、数名で初日の 24 日に伺いました。仏像のコーナーはたくさんの人で賑い、書店の中にありながら、そこだけ異次元の空間になっていました。書棚に並んだ大型のカラフルな洋書群の中で、仏像は「強烈なエネルギー」を放っているのです。

会場ではお忙しい合間を縫って、佳遊さんや靖朋さんにお話を伺うことができました。半年間ほど開催の予定とのことでしたが、しばらくして新型コロナ禍で長らく臨時のお休みが続いたのはとても残念なことでした。

◆　川村先生の作品から　- 白衣観音 -

白衣観音は、記念館に残されている作品の中では最も古い 12 歳の頃の作品。高崎の観音様をもとに彫られたとのことです。

十数年前、先生の作品の年譜を作成している時に、初めて拝見しました。この白衣観音をホームページで初めて公開した時、武蔵野教室の生徒さんから、「先生の作品の中で一番好き、なんて言われた」と、先生は少しうれしそうにはにかんだ笑顔で話されました。

また、幼少の頃に彫った先生ご自慢の作品「セミ」は、当時お友達にあげたとのことで、残念ながら見ることはできません。このセミの彫刻は、本物と見間違うくらいの作品だったと、実姉で記念館館長の宜由子氏からお聞きしました。

仏像以外の作品では、「登山家」の彫刻が残されており、記念館に飾られています。

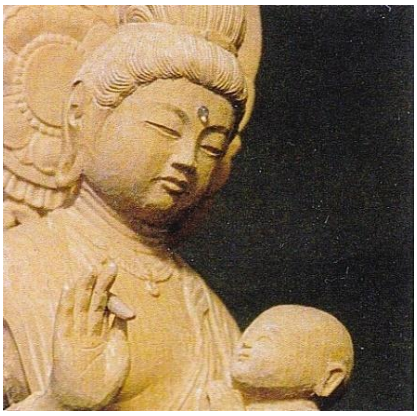
◆　川村先生との出会いと慈母観音像（佐仲　努）

平成八年、六十歳になって、仕事を辞めて仏像彫刻に専念しようと思った。

私の母が亡くなった年齢七十歳までの十年間を自分の好きなことのために使いたかった。

私の仏像彫刻は、昭和五十三年、京都宗教芸術院の通信教育から始まり、昭和五十五年に新規開講した銀座日貿出版社の教室第一期生として三年半ほど通ったが、その後の十五年間は全くの独習期間だった。そこで、どうせ習うなら、先生を選び、基礎から教えてもらおうと思い、色々調べた上、川村先生の武蔵野教室を選んで連絡したところ、何か彫ったものを持って来いと云われた。いろいろ迷った末に慈母観音像を持っていったのだが、先生は、それを見たとたん「（田中）文弥だな」と云われ、その観音像が、田中文弥氏の『心を刻む　仏像彫刻入門』の中にある、慈母観音像の制作図面を見て彫ったものであることを云い当てられた上に、「子供が大きすぎるな」とつぶやかれた。

その日、先生の生徒に対する厳しい評言と、一方で自らのみや彫刻刀を駆使して生徒の作品の補正に没頭する熱意を目のあたりにして、入会希望と併せて基礎から習いたいと申し出たのだが、先生は「そんなことはいい。自分がやりたいと思うものを決めて来い。」と云われた。これが川村先生との最初の出会いだった。



この慈母観音は、いわば私の初期の作の一つで、形も彫りも稚拙なものだが、私には、お顔のやさしさに、仏教でいう慈悲の悲がよく出ているように思われ、大事にしている。

川村先生が云われたように、「子供が大きすぎる」かどうかは、私には今もよく判らない。

◆　仏像彫刻教室から　－ 基本を大切に －

昨年、関係各位のお力添えで記念館教室がスタートできましたことを有難く思います。記念館教室は仏像を彫る環境に大変良い落ち着ける静かな場所です。それに加え数々のお手本となる優れた仏像の存在が大変勉強になります。初級者は無論のこと中級者あるいはそれ以上の方にも大変参考になるに違いありません。このような環境の下で仏像彫刻ができることに感謝しつつ、「仏像彫刻のすすめ」（松久朋琳著）にあります仏像彫刻の心がまえ（１．基本を大切にする　２．一にも根・二にも根　３．気ままをしない）の教訓を忘れずに、私たちが川村先生に教わった技術を生徒さんに伝承していきます。最初は難しいと感じることもあると思いますが「千里の道も一歩より」の言葉通り、少しずつ仏像彫刻が楽しいと実感できる教室になっております。

今回は地紋彫りの一例と現在彫っている薬師如来の台座部分の写真を紹介します。地紋彫りは彫刻の基本となる刀の運びの練習になります。木の目を読んで刀を入れる方向を正確に判断し、適切な力で刀を運ぶ技術を習得することが求められています。地紋彫りで習得した技術は、台座部分等の模様などを彫るときに活かされます。段々慣れてくると基本を忘れがちになりますが、振り返って定期的に地紋を彫って運刀の再確認をしてみるのも必要なことかと思います。地紋には多くの種類の模様があり連続させて彫りますと大変奇麗で立派な作品になります。ぜひいろいろな地紋を彫ってみましょう。（文責：竹内）

＊＊＊　あ・ら・か・る・と　＊＊＊

◆　賛助会会員の皆さまへ　会費納入のお願い　※会費の宛先については、別紙をご参照ください。

平素は雅風会の活動にご理解ご協力を賜り、御礼申し上げます。会員の皆様におかれましては、令和2年度（７月～６月）の会員のご継続を、何卒宜しくお願い申し上げます。

◆　「第57回仏教美術展」（宗教芸術院）開催中止のお知らせ

10月29日～11月1日に開催が予定されていましたが、新型コロナウィルスの感染が拡大している状況を鑑み中止になりました。来年の日程については改めてお知らせします。

◆　「仏像彫刻作品展」開催のお知らせ

日時：令和3年4月1日（木）～4月4日（日）※1日は会場準備　　場所：池袋

新型コロナウィルスの感染状況が心配ですが、川村先生の作品の数々と皆様の作品でコラボした作品展の開催を目指して、ただ今準備中です。思い出の作品、お気に入りの作品、新作等々、皆様のご参加を何卒よろしくお願いいたします。詳細は改めてお知らせいたします。

◎　記念館における新型コロナウィルスの感染防止対策について

緊急事態宣言が解除されてホッとする間もなく、第二波、第三波の脅威を思うとまだまだ気が抜けません。皆様にはくれぐれもお気をつけてお過ごしください。

当面の間記念館へ来館（見学）される時は、事前に記念館（tel:04-2907-3903）までご連絡ください。また、ウイルス感染予防及び拡散防止のため、マスクの着用にご理解ご協力を宜しくお願い申し上げます。

（第２号文責：岩場）

第３号は明年１月に発行の予定です。